



校報

水糸者

No. 1284

元年度・第143号

今年もやっぱり、種小っ子！

数センチの積雪があった今朝「手伝います」と、雪かきスコップを手にしたたくさんの種小っ子が、進んで昇降口付近の雪かきをしてくれました。

新雪の下には、昨日の雨が凍結しており、大変危険な路面となっていて、子ども達も足をとられながらも、きれいに雪を取り払ってくれました。

昇降口にランドセルを置いたまますぐに雪かきに混じる子や「ご苦労さまです」と声がけをする子もたくさんいて、「今年の種小っ子も「『心』が育っている。」とうれしく感じた時間でもありました。

「ご苦労さまです」と声がけをした子は、本当は一緒に雪かきをしたかたのようですが、委員会や学級での朝の諸々の活動があった子ども達でしょう。

「どうして、今日もお手伝いをしてくれたの？」と雪かきをしてくれた子たちにたずねてみました。

【雪かきをしてくれた子たちの主な答え】

- ・下が滑るから、滑って転んでけがするかも知れないと思ったから。
- ・スクールバスがスリップすると思って雪かきをしました。
- ・雪が片付いて、きれいになって行くのが楽しいから。
- ・みんながけがをしないようにと思いながら雪かきをしました。

「相手」のことを考え、思いやりながらの行為（雪かき）であることが、この子たちの言葉から伝わります。4月25日発行の校報1156号に掲載した「それをするのが掃除当番、あなたたちだ」の中に出てくる、Sくんと同じ子が、今回の雪かきという行為を通して、今年の種小にもたくさんいる事が心からうれしく思いました。Sくんについて書いて、昭和42年当時の出羽先生（養護教諭）の「Sくんを見習いましょう」は、次の文で締めくくられています。

掃除はただ「清潔にすればよい」というだけではなく、それを通して机の上で学ぶことのできない、自主性や責任感、義務、勤労等、人間として社会人として学ぶべき点が多く含まれているのだと思う。明日からSくんはますます張り切り、他の子どもはSくんを見習って一生懸命やってくれるに違いない。

当時の種小の先生方も「非認知能力」の大切さをしっかりと説いていました。「非認知能力」の大切さを理解している教員がいる事も、種小の校風・伝統の1つであると考えています。



…25日は「町水泳大会」です…

25日(土)に、町室内温水プールで「第14回冬季水泳大会」が開催されます。

参加チーム名はそれぞれですが、今回も30名を超える多くの種小っ子たちが出場します。今日の児童集会の時に出場選手を紹介し、全校で拍手を送り健闘を祈念しました。

今回の大会でも、普段車いすで生活しているはまなす学級1組の、南翔斗さんが25m背泳ぎに出場します。小学校2年生の時から水泳大会に出場してきている翔斗さんは、昨年度までは、背浮き状態で両手を水中でかく泳法であったため、背泳ぎではなく「自由形」での出場でしたが、今年は完全な「背泳ぎ」をマスターしての出場となります。

なお、選手宣誓は高城妃沙さんと北山結衣さん(6年)が務める予定です。

競技も応援も、マナーもしっかり頑張り、種小っ子!



洋野町温水プールで機能訓練を繰り返す翔斗さん

洋野町青少年交流事業で 浦幌町との交流に 行ってきました!



6年生の石倉滉太さんと庭秀佳さんが洋野町青少年交流事業の一環として、町内の小中学校の代表の一員として、1月7日から10日までの4日間、北海道の浦幌町との交流に行ってきました。

洋野では普段できない「長靴アイスホッケー」や「交流会」が楽しかったと二人は笑顔で話していました。

石倉さんは「学校で勉強した内容を、実際に目で見て来た事で、普段の勉強の大切さに気付いた。」と、庭さんは「交流会などを通して、多くの友だちと仲良くなれた。これからもたくさんの人たちと交流をしていきたい。」と、交流学习の成果を話していました。

洋野町の、種市小学校の代表としてしっかりと交流して来た様子が伝わって来た、二人の笑顔でした。

みんないきいき 1月の種小っ子

～わからん時は教えっこ・うれしい時ははしゃぎっこ・困った時は助けっこ～



関わり合いながら学ぶ子ども達。
「関わり」は本校の大切な教育活動です

「縄跳び」のような巧緻性を養う運動や、非日常的動きを通して支持感覚や逆さ感覚を養う「かべ倒立」は、学童期の子ども達の体をたくさん耕す良い運動です。

本校職員は、子ども達に学ぶ楽しさを教えたいと、県北教育事務所の宇部主任指導主事さんを講師に、ボール運動の講習会を行いました。(1/20)

